

## 視点(1658)

(エコロジー&ロハス編)

### 江戸時代とサステナブル社会!!

20世紀は経済的躍進(成長)の時代で、すべての資源は無限であるとの理念に基づく社会でした。しかし21世紀は、資源は有限であると同時に人間の独り勝ちの時代ではなく自然との融合が大切であり、人間も動物の一種であるとの考え方になりました。すなわち、我々人間は自然との調和の中で持続可能な社会(サステナブル社会)を形成しなければならないことに気づきました。

私は10年前に「LOHAS」(Life Style of Health & Sustainability=健康と持続可能なライフスタイル)の視察・研究にロハスのメッカであるアメリカの「ボルダー市」に行ってきました。その時に、現地の人々に「ロハスの起源は日本の伝統的ライフスタイルなのですよ!!わざわざ何をしに日本人がアメリカまでロハスの研修視察に来たのですか!!」と言われました。そこでロハスと日本の伝統的ライフスタイルを私なりに研究すると、物を大切にすライフスタイルや自然との調和を大切にすライフスタイル等の日本のライフスタイル、特に戦前(昭和時代前期、大正時代、明治時代)のライフスタイルがロハス志向であったことが理解できました。この日本の伝統的ライフスタイルは実は江戸時代に形成されたことを知りました。

私なりに江戸時代と日本の伝統的ライフスタイルとロハスの関係を述べさせていただくと次の通りです(六車流:マーケティング理論)。

<前提としての江戸時代>

- ①江戸時代は260年間戦争がなかった「平和な時代」でした。
- ②江戸時代は人口が3,000万人で固定化し、しかも鎖国により「自給自足の時代」でした。
- ③江戸時代は、前半の100年間は経済的に成長時代でしたが、後半の160年間は「デフレ経済の時代」でした。
- ④江戸時代は日本で初めて「町民文化の時代」でした。

時代	文化の特性	主役
平安時代	みやび	貴族
鎌倉時代、室町時代、安土・桃山時代	わび、さび	武士
<b>江戸時代</b>	<b>いき、いなせ</b>	<b>町民</b>
明治時代	あらた	市民

- ⑤江戸時代は商人が経済を動かす「金融資本の時代」でした。

以上の前提に基づき、江戸時代に「日本の伝統的ライフスタイル」が形成されました。

- ①持続可能な国家であり、衣服のリサイクル(新品→おさがり→古着→ねまき→おしめ→雑巾→肥料)や住農近接による肥料と食物のリサイクル(城下町と下町に隣接して農地があり人糞肥料と新鮮な食物の提供)の効率の良い都市構造でした。
- ②娯楽文化が発展し、歌舞伎、漫才、落語、人形浄瑠璃、浮世絵、大衆演劇、俳句・川柳、旅行等の大衆文化が生まれました。
- ③国家として自給自足経済の中で職人の創意工夫された精巧なものづくりの技術が大発展しました。
- ④“食”も肉、魚、野菜類の調理方法と独自の調味料(料理への汎用性の高い醤油)による日本料理(寿司、そば、うどん、刺身、懐石料理、天ぷら、うな重、すき焼き、保存料理等)の奥が深く繊細かつ美的感覚の食文化が生まれました。
- ⑤教育は武士等の上流社会だけでなく、町民も寺子屋で学び、識字率は著しく高まりました。

このような3,000万人の人口を輸入なしの自給自足経済で成立させるためには、「自然との調和」及び「創意工夫のある技術」が必要でした。しかも、娯楽、食文化、教育の発達により庶民の文化人としてのレベルが高くなり、さらには商人が資本の蓄積を行い、やがて明治維新の富国強兵(日本が欧米からの植民地化を免れた手法)へと結びつきました。江戸時代は薩長政権の明治時代にマイナス志向の面のみを強調されましたが、実は今日の欧米文化ではない伝統的日本文化の形成時期であり、21世紀のニューモダン経済の原点になった時代でした。

日本の伝統的ライフスタイルは、江戸時代以前の「古典・日本ライフスタイル」に江戸時代の「真正・日本ライフスタイル」→明治時代・大正時代・昭和の戦前の「欧米融合の日本ライフスタイル」→戦後の「欧米埋没の日本のライフスタイル」、そして21世紀には「脱欧米・新生日本ライフスタイル」へと進化します。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六車 秀之